

製品安全データシート

会社名：株式会社 北陸濾化

住 所：〒916-0019 福井県鯖江市丸山町2丁目4-7

TEL：0778-51-7155 FAX：0778-51-7440

工業薬品の製造（登録番号第 16号）

工業薬品の販売（登録番号第 263号）

作成日：2003年10月21日 改正：2006年1月5日

1、製品名 ホロクリンCH-400S

2、物質の特定

単一製品・混合物の区分：混合物製品

含有成分

化学名	燐酸	無機酸	水・その他
化学式	H3PO4		
含有濃度	7.2%	1.0%	1.8%
化審法	1-422		
CAS	7664-38-2		

国連分類：クラス8（腐食性物質） 国連番号：

3、危険有害性の分類

分類の名称：腐食性物質

危険性：水と接触すると熱を発生することがある。

有害性：皮膚、粘膜、眼に対し刺激性がある。濃度の低い場合でも、皮膚に付着した場合、数時間後に痛み等の症状が現れることがある。蒸気を吸入すると鼻、喉が刺激され、肺、気管支が侵され肺水腫を起こすことがある。

環境影響：水に混入すると酸性度が上昇して、水棲生物が死滅することがある。

4、応急処置

眼に入った場合：眼をこすらずに直ちに多量の流水で15分以上洗眼し、医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合：ただちに付着又は接触部を清水で洗い流す。汚染された衣服や靴を脱がせる。

吸入した場合：新鮮な空気のある場所に移し安静にさせる。呼吸が困難な場合には酸素吸入をし、直ちに医師の手当を受ける。

飲み込んだ場合：水を飲ませた後吐き出させ、卵白と混ぜた牛乳を飲ませた後直ちに医師の手当を受ける。無理に患者に吐かせようとするとかえって危険が増す。

5、火災時の処置

消火方法：周辺火災の場合の処置

：すみやかに容器を安全な場所に移動する。移動不可能な場合は、容器を破損しないように注水し冷却する。周辺火災の消火に努める。酸性なので、製品が混入した消火排水はアルカリによる中和処理が必要である。

消火剤：乾燥珪藻土・乾燥砂・乾燥消石灰・その他消化剤を使用法に従って用いる。

6、漏洩時の措置

腐食性が強いので、必ず保護具を着用する。風下で作業しない。希アルカリ（消石灰やソーダ灰等）で中和し乾燥砂、おが屑、ウエスなどに吸収させてプラスチック容器に回収する。床上の残分は大量の水で十分希釈し洗い流す。希釈の際、水と急激に接触すると多量の熱が発生し酸が飛散することがあるので注意する。また直接中和剤を散布すると発熱し、酸が飛散することがあるので必ず水で希釈してから中和処理を行う。発生するガスを霧状の水をかけ吸収させる。この場合濃厚な排液が河川等に排出されないよう注意する。漏洩した場所の周辺はその安全が確認されるまで、人の立ち入りを禁止する。

7、取扱及び保管上の注意

- 取扱い** : 取扱いは換気のよい場所で行う。換気の悪い場所ではミヤや蒸気を吸入しないように注意する。体にふれて薬症を起こさないよう、又蒸気を吸入しない様に作業時には適切な保護具（手袋、長靴、眼鏡、ガスマスク等）を着用し、かつ作業場付近には十分な水を用意しておく。腐食性が著しい為、装置、配管、容器等は耐食性材質（ポリエチレン、テフロン等樹脂製又は樹脂ライニング）を使用する。容器が破損しないように充分注意して取扱う。容器の栓や口を持って取扱わない。栓を開ける時は酸の噴出の恐れがあるから顔や手を容器の口に近づけない。栓を開ける時は容器の口から顔を遠ざけ徐々に1回転程緩め、内部の圧を抜き、更に徐々に緩めて取り外す。直接中和剤を混合すると発熱し、酸が飛散することがあるので中和する時は水で希釈してから行う。取扱い後は手洗い、洗顔を充分に行い使用した保護具は必ず水洗及び乾燥を行う。
- 保管** : 容器は直射日光を避け、密栓して空気との接触を避け 40 以下の冷暗所に貯蔵する。保管場所は十分換気を行い飛散、流出、しみだし、地下への浸透等を防止する措置を講じておく。又保管場所近くには水道口、消石灰等の中和剤、保護具等を常備しておく。金属、金属化合物、アルカリシアン化物とは隔離して貯蔵する。その他、毒劇法などの法令に定めるところに従う。

8、暴露防止措置

- 管理濃度：設定されていない。
- 許容濃度：日本産業衛生学会(1998年度版) : 1mg/m³ (硫酸として)
ACGIH (1997年度版) : TWA 1mg/m³ (硫酸として)
: STEL 3mg/m³ (硫酸として)
- 設備対策：局所排気装置または全体排気装置を設ける。
取扱い場所の近辺に、洗眼及び身体洗浄のための設備を設ける。
廃棄物中和、希釈装置を設ける。
- 保護具：保護眼鏡：ゴーグル等
保護手袋：ゴム手袋、ビニール手袋等
保護衣：ゴム又はビニール衣、ゴム長靴等

9、物理・化学的性質

- 外観等：薄黄色の液体で、特有の刺激臭がある。初留点：-
- 沸点：100 以上 比重：(20) 1.651
- 蒸気圧：- kPa 以下 ()
- 揮発性：水などの一部成分が揮発する
- 融点：-
- 溶解度：水：自由に混合する。

10、危険性情報（安定性・反応性）

- 引火点：不燃性
- 発火点：不燃性
- 発火性（自然発火性、水との反応性）：水と作用し発熱する。
自己反応性・爆発性：なし
- 安定性：危険性有り
- 反応性：吸湿性があり発熱する。

11、有害性情報

- 刺激性（皮膚・眼）：皮膚、粘膜、眼に対し刺激性がある
- 感受性：現在のところ有用な情報無し
- 急性毒性：知見なし
- 亜慢性毒性：知見なし 慢性毒性：知見なし
- がん原性：記載なし 変異原性：知見なし
- 生殖毒性：知見なし 催奇形性：知見なし

12、環境影響情報

分解性：現在のところ有用な情報無し。

蓄積性：現在のところ有用な情報無し。

魚毒性：現在のところ有用な情報無し。

その他：水に混入すると酸性が上昇し、水棲生物が死滅することがある。

この製品は COD 成分を含んでいるので、製品が排水に混入した場合には排水の COD を増加させる。

原液 COD 濃度 900mg/L 計量方法 JIS K 0102 17

BOD 濃度 150mg/l 計量方法 JIS K 0102 21 及び 32.3

13、廃棄上の注意

水で希釈した後、消石灰または苛性ソーダ等の中和剤の水溶液に攪拌しながら徐々に加えて中和処理を行い、多量の水で希釈して処理する。消石灰を使用した場合は上澄液のみを処理する。

消石灰等の中和剤に急激に接触させると多量の熱が発生し、酸が飛散する可能性があるため、必ず水で希釈した後、注意深く徐々に処理を行なう。

処理作業を行なうときは必ず保護具を着用する。

14、輸送上の注意

容器に漏れないことを確かめ、衝突、転倒、落下、破壊のないよう積み込み荷崩れ防止を確実に行う。移動、容器への充填、積み込み、荷下ろし等の作業を行う時は必要な保護具を着用する。衝突、転倒、墜落等によって容器から漏れたり飛散したりしないように慎重に取り扱う。応急措置に必要な保護具、中和剤、救急薬品、応急措置が記載されている書面等を積載しておく。遮光性被覆をし、雨水、容器の摩擦、衝撃を防ぐ。

15、適用法令

毒・劇物取締法：非該当

労働安全衛生法：施行令別表第 3 特定化学物質（第 3 類物質）

施行令第 18 条の 2 名称等を通知すべき有害物 307 - 硝酸、 611 - 硫酸、 616 - 燐酸

P R T R 法：非該当

危 規 則：第 3 条危険物告示別表第 3 腐食性物質

海洋汚染防止法：施行令別表第 1 有害液体物質（D 類）

航 空 法：施行規則第 194 条危険物告示別表第 1 腐食性物質

港 則 法：施行規則第 12 条危険物（腐食性物質）

水質汚濁防止法：施行令第 3 条水素イオン濃度等の項目

水 道 法：規制物質

下 水 道 法：施工令 規制物質

廃棄物の処理及び清掃に関する法律：特別管理産業廃棄物 廃酸（水素イオン濃度 2.0 以下のもの）

* 全ての資料や文献を調査したわけではないため情報漏れがあるかもしれませんが。

また、新しい知見の発表や従来の説の訂正により内容に変更が生じます。重要な決定等にご利用される場合は、出典等をよく検討されるか、試験によって確かめられることをお勧めします。なお、含有量、物理化学的性質等の数値は保証値ではありません。また、注意事項は、通常的な取扱を対象としたものなので、特殊な取扱の場合には、この点にご配慮をお願いします。